

3

地区連・単位自治会の活動紹介

清 新 地区.....	70
(清新地区自治会連合会)	
横 山 地区.....	72
(小町通自治会)	
中 央 地区.....	74
(相生四丁目自治会)	
大 野 中 地区.....	76
(グリーンハイツ自治会)	
相 模 台 地区.....	78
(自治会法人 御園五丁目自治会)	
東 林 地区.....	80
(翠ヶ丘自治会)	
津久井町 地区.....	82
(自治会法人 中村自治会)	

「知らせる義務」と「知る権利」 清新地区自治連の広報活動について



清新地区 広報担当
篠崎 好男

表題の言葉は、ある自治会員から寄せられたものです。自治会あるいは自治会連合会は、会員に対していろいろなことを

.....「知らせる義務」がある。
そして、自治会員は、地区に関する情報などを
.....「知る権利」がある というのです。

確かにその通りです。新聞・テレビ・ネットなどにより、情報は豊富にあります。自分が住んでいる地域の細かい情報までは、なかなか把握できません。

幸い自治会連合会は、地区防犯協会や交通安全推進協議会等の組織に代表者が出ているので、地区の交通事故や犯罪の発生状況等を入手することができます。しかし、そういった資料も自治会長さんにはお渡ししますが、一般の会員の皆さんにはなかなか徹底されない面がありました。

また、地域や自治会における課題・問題点について、地区全体で取り組もうとした場合、共通認識を持つためには、住民全体に広報することが必要となります。

さらに、こんな意見もありました。
「自治会は何をしているのかわからない」
「自治会に入らなくても何の不自由もない」
「自治会に入っているメリットは何？」

以上のような観点から「清新地区自治連ニュース」を発行することにしました。A4版に両面印刷、原則として、毎月1日と15日に定期的に発行、自治会の回覧のほか公民館のロビーにも置きました。自治会や地域のことを何でも取り上げることにしました。

大きな手ごたえと反響

清新小学校の規模適正化のために、新設小の設置が決まり、学校名の募集が行われることになりました。さっそく投票を呼びかけました。その結果969件もの応募がありました。前年開校した夢の丘小や富士見小と比べて約3倍近くの数字です。この全てが自治連ニュースの成果かどうかは確認できませんが、大きく影響を与えたのは確かだと思います。

次に選挙の投票率の問題を取り上げました。清新地区は投票率が下位の投票所が多く、選挙管理委員会の協力を得て、低投票率の原因を調査しました。

投票率が低いのは「居住年数が5年未満、20～30代の若年層」ということが判明しました。清新地区には該当する人が多いということでした。しかも、「最近転入してきた若い人たちは、自治会への加入率が低いという傾向にありますので、投票率と自治会加入率は相関関係にあるようです。選挙がある度に投票を呼びかけましたが、自治連ニュースを読んでくださる方は、投票に行っています。行かない方は読む機会がない、ということで投票率のアップにはなかなか結びつきませんでした。選挙への関心は高まったと思っています。

その他、ふるさとまつり・町民運動会・防災訓練・市政懇談会・消防団等々への参加呼びかけ、ひったくり・露出犯への注意喚起、犯罪や交通事故の発生状況、リサイクルやボランティアのことまで取り上げました。

自治連が入手できた各種情報の中から、皆さんに「知ってもらいたいこと、目指していること、行なっていること」をお知らせする。そうすることで、会員にとって自治会・自治連がより身近な存在となったことと確信しています。

多様な手段で広報を

最近、掲示板の価値が見直されています。自治会の加入率が低下している現在、誰でも目にするのでできる掲示板は、情報伝達的手段として、効果的な存在になったのです。そこへ自治会・自治連のニュースを掲示することにより、未入会者へも情報発信することができます。ぜひ活用したいものです。

また、自治連のホームページ作成も検討する必要があります。回覧・掲示板・ホームページ等、多様な手段で広報することが、自治会の活性化、安全・安心のまちづくりに欠かせないのではないのでしょうか。



清新地区自治連ニュース 第15号



清新地区自治連ニュース 第8号

新設校関連の記事は大好評でした

新設小学校の校名案
開校準備協議会で
5つに絞り込み

新設小学校の校名は
『小山小学校』
《第3回開校準備協議会で選定》



そして開校

理想的な活動をめざして!

小町通自治会
会長 **長谷川 哲雄**

私たちの住む「小町通自治会」は、昭和45年(1970年)相模原市小町通1丁目、2丁目の居住者、事業者で発足して39年目を迎えた。会員数は平成20年4月現在、個人414・法人34・計448名、この10年間で2倍と飛躍的な増加をしてきた。住宅開発は現在も継続しており増加しつつある。戦後、高度成長期に急速に発展してきた新興住宅であり、この町を求めて移り住んで来た方々によって「自治会活動」が行われてきた。そのために活動は非常に活発、熱心で協力的・参加意欲も旺盛かつ団結力がある。

ここで自治会について考えてみる。経済力の基盤が働く「職場」であるとするなら、生活を営む場所

は「自治会」にあり、自治会活動の原点は「隣近所の助け合い」にあると思う。そういう意味で「小町通自治会」は「親睦やふれあいを中心とした活動」と「安全・安心・マナー・ルールを重点とした活動」のふたつに分類している。一般的に自治会に期待する活動は後者かも知れない。ゴミの分別や収集日のルールが守られ、ゴミ箱は常にきれいに清掃されている。又、防犯灯の切れや暗がり道路がなく夜間でも安心して歩行できる。空き巣や犯罪もなく安心して生活ができる。そして隣近所と良好な関係を築き、普段からお互い助け合いが出来ているようなコミュニティにしたいと考えるのではないだろうか。

「小町通自治会」はこのような理想的な自治会活動をめざしている。

「小町通自治会」の3活動について紹介する。

まず「小町ふるさとまつり・みこしパレード」。毎年8月第1土・日に行われる自治会最大のイベントである。全員でまつりを楽しみ、子どもの思い出を作ることを最大のコンセプトに、自治会内諸団体(子ども会、小町交友会(60歳以上会員)、野球部、卓球部他)も協賛して盛大に行われる。1日目は、演芸と協賛団体による模擬店を中心に、2日目はまつり最大の呼び物「大人・子どもみこしパレード」

が「セヤッ!セヤッ!」と町内をパレードする。町内の飲食店さんやコンビニさん、事業者さん等が休憩所と梅干しやドリンク等をおかき手に提供してくれて非常に感謝している。「大人みこし」は昭和61年に自治会有志のボランティアによる手創り品である。近年は「ふるさとまつり」に小町2世のふるさと回帰現象が生まれつつあり非常に喜ばしいことと思っている。

次に「横山地区運動会」を紹介する。今年10月5日に横山地区連加盟21自治会が参加して行われ、「小町通自治会」は10年ぶりの優勝に輝いた。祝賀会は賑わいと喜びにあふれ会長胴上げのおまけ付き、美酒によるお祝いが続いた。選手や応援の協力があったればこそその優勝で、事前の準備、練習、そして応援体制も万全に整えた結果で、昼食弁当160個が参加人数の多さを物語る。

最後に平成14年に発足の「小町通自主防災隊」は、安全・安心の活動であり今年で6周年を迎えた。「小町通自主防災隊」の特徴は、自治会とは別組織であり隊長以下役員が原則として固定化していることである。組織役員が毎年新編成される自治会が多い中で、役員を継続することで活動が活性化している大きな理由がここにある。又、防災訓練は小町通自治

会単独で実施しており、今年横山地区連合防災訓練に参加した。会員の協力で屋外10か所に消火器を設置している。今年度から市の指導で避難所運営協議会が新設され、防災訓練地域と避難所運営地域のミスマッチ問題が起きている。これから大きな課題となってくるはずであり何とか知恵をしぼる必要がある。

理想的な自治会活動を実現するためには、「親睦やふれあいを中心とした活動」をベースに、「安全・安心・マナー・ルールを重点とした活動」を進めればうまくいくと考えている。すなわち前者の活動でお互いの顔を知り合い、信頼感を醸成すればおのずと後者活動の原点である「お互い様」という互譲の精神が生まれ、理想的なコミュニティ作りをめざした自治会活動になるものと確信しており今後も継続していきたい。



みこしパレード



横山地区運動会で優勝



子ども広場での防災訓練

中央地区(相生四丁目自治会)

「相栄地区防犯ジョイント・サーティ」について

相生四丁目自治会
前会長 藤井 合

相栄ブロックは中央地区の東南にある、相生、高根2丁目、弥栄、松が丘の4町にある7自治会から成り、淵野辺公園をはじめ、小・中学校各1校、高等学校1校、国民生活センターなど、広大な敷地を有する施設があります。

「相栄地区防犯ジョイント・サーティ」は、平成15年12月、この7自治会の有志を中心に、相栄地区の自主防犯活動を展開するために設立しました。主な活動は、パトロール、街頭キャンペーン、講演会などです。

パトロールは、現在、夜間と平日午後の児童下校時の2種類で、毎月1回ずつ行っています。設立当

初は、国際NPO法人「日本ガーディアン・エンジェルズ」の隊員の同行指導を受けましたが、最近は、ほとんど我々だけで行っています。メンバーは自治会有志のほか、小学校の職員やPTA会員です。事前に相模原警察署、相生交番、市役所防犯担当部署に報告し、非常時の対応をお願いしています。装備は、ネーム入りのオレンジ色の野球帽、夜光ベスト、腕章を着用し、交通整理灯と携帯電灯を持って行きます。これらは、自治会からの分担金のほか、平成16年度に市パートナーシップ事業助成金を受け整備しました。

行動範囲は、相生、高根2丁目と弥栄、松が丘とその往復路の3区域に分けています。ほとんど毎回、青パトカーが巡行するほか、時には警察署、交番、市役所も同行してくれ、大きな励みになっています。出会った人への声かけ、無灯火自転車への注意などが中心になり、これまでは大きな事件には出会っていません。活動要領を制定し、事件に出会ったときは、介入せずに即刻当局へ通報し、現場を見守ることを原則としています。

児童下校時のパトロールは、弥栄小学校PTA役員が主導し、通学路を3コースに分けてそれぞれパトロールしています。メンバーは後方から同行する

形で参加しています。

街頭キャンペーンは、半年に1回程度、平日の午後、相生交番前、県道沿いのスーパーの前、淵野辺駅南口の3カ所が主で、警察署員や県くらし安全指導員も参加され、警察署からの防犯チラシやグッズを配布しています。駅前以外は通行者が案外少ない状況です。

講演会は、自治連や公民館、警察署などとの共催が主で、毎回数十人の参加を得ています。公民館まつりでは、我々の活動状況の写真展示や、防犯チラシの配布などを行っています。

弥栄小学校とは、同校が「こども110番の家」開始以前から防犯活動に熱心だったこともあり、我々も年2回ほどの防犯活動交流会への参加、校長先生ほか職員のパトロール参加など密接な関係があり、PTAからはジョイント・サーティの役員も出してもらっています。ただ、松が丘は小学校区が管外のため、独自に交流しています。また、地区内の中学校と高等学校は、今のところ、我々の防犯活動への直接の参加はありません。

相模原警察署とは、署の行事への参加、パトロールや街頭キャンペーンへの同行支援、講演会の講師など、常に密接な関係を維持しています。

設立当初から親しく支援を受けている「日本ガーディアン・エンジェルズ」とは、パトロールの同行指導や、活動現場の見学など、引き続き援助を受けていますが、最近は他地区での活動が多忙のためと、我々が独立レベルに達しているため、年1回くらいの同行指導に留まっています。

市の交通・地域安全課が窓口となって、常にご指導いただき、毎年、活動状況を副市長に報告しています。

パトロールでは、相模原警察署長ほか幹部がパトカー2台で同行されたことがあり、思い出深いものでした。また、公園近辺で女子高校生の3人組に激励されたこともありました。ガーディアン・エンジェルズ隊員が同行した際、淵野辺公園で十数人の若者の集団に会い、対応方法の実地見学ができました。普段通ったことのない地域が多く、新たな発見もありました。最近では、出会った方から「ご苦労様」と言われることが増え、地域への活動の浸透がうかがえます。このような防犯活動がすでにまる5年近く続いており、参加者も増え、関係者の親睦の度合いも深まって、地域の防犯に役立っているものと信じています。



相模原警察署、日本ガーディアン・エンジェルズと講演会



夜間パトロール



街頭キャンペーン



弥栄小学校 下校時パトロール

自治会役員の免除制度と協力員制度について

グリーンハイツ自治会
会長 宇佐美 純夫

グリーンハイツは昭和43年から44年にかけて、鶴野森1丁目に民間分譲会社によって建設された684世帯で構成された集合住宅で、住み始めてから40年近く経過しております。

町田駅と古淵駅のほぼ中間に位置し、自然の景観にも恵まれた住み良い環境にあり、居住者の約3割の方が当初の入居時から住み続けています。

684世帯といっても長期不在者や企業の社宅として利用されています2棟の空き状況が大きく、現在実際に居住している世帯は600世帯となっており、自治会の加入数は561世帯ですから加入率は93.5%となります。任意加入としている中で自治会の事業

に理解を示してくれる方が多く、又、自分たちの暮らしを自分たちで考え、改善していこうという意識が高いこともあり、相模原市の中では高い加入率となっています。しかしながら、社会的問題といわれています少子高齢化の現象はグリーンハイツにとっても例外ではなく、むしろ相模原市の中でも、特に高齢化が進んでいる地域となっており、深刻な問題を多く抱えています。

年々高齢化が進む中で、役員になることが嫌なので自治会を退会するという高齢の方が出てきたことから「会則見直し検討委員会」を設置し、役員の数及び選任に関する会則の見直しを開始し、多くの会員から意見を聞きながら検討を進めました。

ご承知のように自治会事業は単に会員相互の交流や親睦のための諸行事だけを行なっていれば良いという時代ではありません。地域の環境保全、ごみの減量、交通安全対策、防犯・防災活動等自治会に課せられる業務は年々増加しています。

こうした業務を毎年交代する役員だけでこなす事は役員にとって非常に負担となります。平成15年の総会において、「会則見直し検討委員会」の結論として出された、役員免除制度の導入 役員定数の削減 定数削減の保障としての協力員制度の導

入が提案され承認されました。

役員免除の条件としては、

1. 世帯全員が高齢かつ健康に問題がある
2. 満2歳以下の乳幼児を抱えている
3. その他重大な事由があり、役員会が認めたとき

としました。

平成20年度は実に99世帯が免除対象となっています。しかしながら各専門部への協力員の貢献もあり、何とかサービスレベルを落とさずに自治会活動を行っています。更に自治会役員の負担を減らすために、自治会最大の行事である夏祭りに関しては協力員の中から恒久的な世話人会を設置し、実行委員会での自治会の分担を軽減しました。又、来客駐車場運営業務の管理事務所への委託を行い、本年度中には管理組合の協力による自治会事務所の設置及びパソコンの導入による事務作業の軽減を図ります。

本年度は役員の業務軽減だけではなく、永年の懸案でありました「高齢者家庭支援問題検討委員会」を設置しました。エレベーターのないグリーンハイツでのごみ出しや家具の移動等物理的な支援や、一声かけ運動や高齢者の方に「表に出て頂く」・「多くの方と会話して頂く」ためのソフト的な支援をどう

するかを毎年環境福祉部で検討していましたが、役員任期1年ではどうしても検討だけで終わってしまいます。そこで、自治会・管理組合から各1名、他に4名の方に委員になって頂き、プロジェクト的な組織を立ち上げました。全世帯対象に実態・要望アンケートを実施し、支援内容や協力員募集の検討を開始しております。活動は開始されたばかりですが、アンケートの中には「いずれ支援していただく立場になるので、体が動く内はお手伝いします」との意見が少なからずあり、心強く思っています。協力員の力を借りて、出来る部分から実行して行きたいと思えます。



自治会主催 文化作品展



夏まつり



おもと会(老人会)の活動



見守り隊 活動



グリーンハイツ風景

「安全・安心な地域」 を目指して

自治会法人 御園五丁目自治会
会長 近藤 健二

当自治会の歴史と活動概要

当自治会は、近隣自治会の中では比較的遅い昭和44年(1969年)7月1日に誕生した。

また平成17年8月31日、従来の自治会を基に、新しく法人自治会としてスタートし、通算して今年で39年を迎えている。会員数はほぼ400世帯を数え、現在に至っている。

当自治会では、現在、親睦、公園の除草・清掃、防災、防犯、及び体育祭などの各種活動を実施している。この内、近時は特に「安全・安心な地域」を目指して、防災と防犯活動に重点を移しつつある。また、これら行事における安全管理を重視している。

次に、これら重視事項について紹介する。

防災訓練

毎年秋に、双葉小学校避難所指定8自治会の合同防災訓練を実施しており、今年10月には9回目を行った。毎年600名前後の参加を得ている。訓練にあたっては、消防署等多くの関係機関の協力を得て、避難所運営、災害時要援護者支援、救出救助等9項目の訓練を実施している。訓練参加者は、この内3項目の訓練を順次受けている。

この避難所運営においては、各自治会単位で「炊出し班」等6班を担当して訓練している。お昼には、その炊出しを参加者全員が試食して成果を確かめて訓練を終了している。

また時には、宿泊体験も行うなど、近隣自治会のモデルケースとして高く評価されていると自負している。

防犯パトロール

防犯パトロールは、平成16年度に市の「防犯モデル地区」に指定されたことを機に、このモデル事業の一環として月4回実施することとし、最近力を入れている行事である。

当自治会における防犯パトロールの特徴の一つは、相模原南警察署との合同パトロールの形態を採っており、警察官と合同で町内や双葉小学校児童の通学路をパトロールしている。

また、パトロールの要領としては、不審者に対する犯罪の抑止及び地域住民への防犯意識の高揚を主眼として行っている。

開始から4年を経過したが、当初のメンバーは、男性役員のための10名程度でスタートしたが、現在では男女の一般会員も加わり、20名を超えるに至っている。

防犯活動として、パトロールのみならず相模原南警察署から配布される「交通速報」など犯罪予防情報の回覧や掲示を適宜に行い、地域住民の防犯意識の高揚に務めている。

これらの努力の結果、当地域では街頭犯罪等が極めて少ないものと自負している。

自治会活動における安全管理

当自治会の過去の活動において、横浜水道道緑道の除草作業のとき、防護面やメガネを使用しないで刈払機を操作しているのを見て驚いた。次に、「夏まつり」ではテントを建てたままにし、固定しない。

さらに秋の文化祭の時には、建てたテントを1週間近くもそのままにしておくという。これらを見て、「今どき、こんな世界があるのか。」と恐ろしくなった。

一方、近隣自治会からは、作業安全、会計上の問題などの話を聞くに及んでいるが、これらは前述の「怖くなった」と同じ問題に起因していると推察している。

昨今、これら安全管理や組織管理の諸問題を認識して、当自治会では世間並みではあるが、「刈払機を操作するときは防護面やメガネの装着を必須」とし、「建てたテントはロープとアンカーで固定する」などの安全対策を始め、組織管理の軌道修正に努める事としており、近隣地域のモデルになれば幸いと考えている。



防災訓練会場に集合する訓練参加者



避難所運営訓練・炊出しを行う訓練参加者



災害時要援護者支援訓練・車椅子の操作訓練を受ける参加者



救出救助訓練・ジャッキの操作を学ぶ訓練参加者



防犯パトロール・警察官と合同で公園を見回るパトロール隊



防犯パトロール・警察官と合同で町内を見回るパトロール隊



防犯パトロール・下校児童を見守るパトロール隊



防犯パトロール・通学路の交差点で
下校児童の安全指導を行うパトロール隊

東林地区(翠ヶ丘自治会)

「防犯モデル地区」について

翠ヶ丘自治会
会長 **金子 匡南**

翠ヶ丘自治会では、平成16年度に、市から「防犯モデル地区」の指定を受け、防犯対策の強化に取り組んできました。住民の防犯意識が大きく高まるとともに、防犯活動を通じた住民同士の連帯感も広がり、“安全・安心のまちづくり”に寄与しています。

防犯モデル地区とは

近年、犯罪抑止機能として大きな役割を果たしてきた地域社会の連帯が希薄になり、犯罪が増加して、不安や危険を感じる場面が多く見られるようになってきました。

このような中で、地域社会の持つ犯罪抑止機能を

活性化させるため、「防犯モデル地区」制度が創設され、平成16年度から18年度までの間に、旧市自治会連合会18地区のうち各地区から1団体をモデル地区として、1年目20万円、2年目10万円の補助金が交付されることになったものです。

翠ヶ丘自治会のモデル地区指定

翠ヶ丘自治会は、小田急相模原駅の南側・東林間駅の西側に位置し、交通の利便性がよいことから、昭和30年代以降に急速な宅地化が進み、現在では2000世帯を有する大きな自治会に発展し、平成20年には60周年を迎えました。

「防犯モデル地区」の指定を受けるまでの防犯活動としては、地区連で実施する「年末パトロール」に参加する程度でした。

「防犯モデル地区」の選定に際し、地区連で協議した結果、翠ヶ丘自治会が最適との方向が出され、また、市からの熱心な指導・研修を受けて具体的な対応も理解できたことから、当自治会としても指定を受けることに決定いたしました。

モデル事業の実施

平成16年度には、市からの補助金を活用して、防

犯情報連絡用自転車の購入、防犯立て看板の作成、防犯ベストや、腕章などを購入するとともに、相模原南警察署の協力による防犯講習会の実施や防犯映画の上映なども行いました。

防犯活動としては、自治会が7つの区に分かれていることから、各区単位のパトロール隊を組織して、各区月2回のパトロールを実施しており、さらに、防犯ボランティアとして「ワンワン隊」と「ウォーキング隊」を募り、散歩などの時に腕章を着け、地域内の見回りに協力していただいています。

このほか、平成20年度から、「こども見守り隊」として、自治会内7つの区の責任者への緊急連絡網を作り、犯罪発生の場合などに、速やかに登下校時の校門や帰り道での見守り出動ができるようにいたしました。

また、毎年、相模原南警察署による防犯に関する講演や県の「くらし安全指導員」を招いての防犯寸劇の実施などにより、直接にかつ分かりやすく、防犯知識の向上を図っています。

現在の状況とこれから

平成16年度に始まった「防犯モデル地区」制度は、平成18年度に終了しましたが、現在では、防犯活動

への理解は一層深まり、活動への参加者も増えていきます。

また、平日頃の防犯活動を通して、班長などの自治会活動への参加意識が高まるとともに、「腕章」や「防犯ベスト」を着用していると、「ご苦労様です」の励ましもいただくようになり、さらに、防犯活動を離れても、あいさつや声かけが頻繁に行われるようになりました。

これからも、「防犯モデル地区」指定により高まった“地域のきずな”をさらに強化し、防犯・防災・交通安全・福祉など、地域が抱える様々な問題について、住民が一体となって取り組み、『安全・安心で、人と人の心のふれあいを大切にする、あたたかな翠ヶ丘自治会』を作っていきたいと考えています。



おじさん いつもありがとう



みんな気をつけてね



防犯パトロールご苦労さま



防犯パトロール巡回中



みんなでしっかり防犯パトロール

津久井町地区(中村自治会)

自分たちの地域は自分たちで

自治会法人 中村自治会
会長 向山 武

どうもです『中村自治会』

私たち中村自治会は、国道412号と国道413号が交差し、津久井高校や神奈中のバスターミナルなどがある津久井町の三ヶ木交差点をエリアに、約320世帯で構成する自治会です。

『自分たちの地域は自分たちで!』をコンセプトに、協働の精神に満ち溢れたエネルギーで他に誇れる自治会です。

守り育ててます『ホタルの里』

私たち自治会地内には、湧水が現存しています。この湧き出ている水により「宮川」と「下の沢」

と呼ばれる二つの小川が静かに流れ、癒しと憩いの空間として永く大切にされて来ています。

過去には、地域の大切な生活用水として使われておりましたが、現在では緊急時の際の水として、その役割を担っています。

なんと、この二つの小川。上段を流れる宮川には源氏ボタルが、下段を流れる下の沢には平家ボタルが毎年、季節ともなれば幻想的なホタルの舞が見られます。昨今における環境の悪化などにより、状況は決して安閑としたものではありません。一層の保存活動に努める必要性が求められてきております。

近年、ホタルの里整備のプロジェクト化の拡大展開を進行中であります。次の世代に、地域の貴重な共有財産として受け継いで貰わなければなりません。

頑張ってます『防犯パトロール隊』

各地にて、治安に対する不安が叫ばれていますが、私たちの地域も例外ではありません。

窃盗や不審者の出没等の不安の声は、年々広がってきています。過去、私たちの地域には交番が置かれておりましたが、現在はありません。様々な実情の中、地域の安全と安心を!と、防犯パトロール隊が活躍を始めました。

隊員の面々は自治会名が記された、ひときわ目立つお揃いの帽子とユニフォームに袖を通して、愛犬と共にワンワンパトロールや仲間と一緒にウォーキングパトロールを行っています。

隊員個々の判断で時間とコースを決め、防犯の基本は、まず日常のあいさつや言葉かけからと、日々のパトロールに努めています。

続けてます『資源回収』

捨てればゴミ、生かせば資源。皆で継続すれば資金!の合言葉のもと、一体となって資源回収に取り組んでいます。今日、地球規模での環境問題が騒がれています。何事もそうではありますが、一朝一夕には問題は解決されるものではありません。

私たちの自治会では、長年にわたって毎月2回、自治会作成の幟旗を目印にたくさんの協力のもとに行われています。昨年度は、市から優良団体としての表彰を授かりました。このことによって、今日の活動に対し、より一層の励みとなり生かされております。

汗が光ります『花いっぱい美化活動』

花の彩りで、心の潤いを!環境の美化で心の和み

を!と、花の植栽活動を行い、自治会内の環境美化に努めています。交差点や病院、自治会館等、多くの人が行き交う場所を主に、「とても綺麗だね!」の一言を喜びに汗を流しています。

併せて、児童公園等の草刈りなどの美化活動も年間を通して行っていますが、活動の時期が夏場の作業だけに、大変さは生半可ではありません。

「誰かがやらなければならないこと!」の言葉に、地域が支えられていることを改めて実感させられます。

ふれあってます『イベント活動』

私たちの自治会は、津久井中央小学校区を地域コミュニティの母体として、津久井中央地区自治連として形成されています。この中でソフトボール大会、ソフトバレーボール大会、体育祭、グラウンドゴルフ大会等の体育的行事や、道志川をステージにした写生大会、写真コンクール、美化キャンペーン、文化祭での演芸や模擬店の出店等の文化的行事にと、年間を多岐にわたって行われています。

こうした各種行事への参加の右肩下がり傾向に、最近特に危機感を禁じ得ません。このことは、私たちの自治会に限った事ではないでしょうが、こうした傾向が自治会離れへと連鎖しているように思えます。

結びにあたって駄弁を一言

地域コミュニティの必要性と重要性を熱く語る日々にあって、地域に共存する人々が、私は!ではなく、私も!私に!私たちが!へと、生活スタイルの意識と在り方の変容が求められる時ではと痛感させられています。

今日、地域コミュニティの存在すら否定される時代の中での自治会活動の運営は、まさに豊かさから生じた自己都合主義。いわゆる、我がまま勝手な個人の歪んだ権利との戦いと言えるのではないのでしょうか。



ホタルの里の整備。源流部にある公園を



防犯パトロール隊。隊員が一同に集結して



文化祭での模擬店の出店。開店直前の捕らぬ狸の



資源回収。32ヶ所で自治会が作成した幟旗の下に



花いっぱい美化活動。プランターへの植栽に精を



防災訓練。まずは、避難訓練からスタート